

ほけんだより

思春期保健事業

高林中学校

R5.7.14

石戸 凌子

7月3日(月)に助産師の森屋佳代さん、菊地怜美さんをお迎えして、思春期保健事業が行われました。各学年のテーマは、次の通りです。

- 1年生 「成長していく心と体」
＜内容＞ 男子：二次性徴・射精・性器の清潔・不安・悩みの解決・LGBTQ+
女子：二次性徴・月経(しくみ、対処、記録の付け方)・悩みの解決・LGBTQ+
- 2年生 「生命誕生」
＜内容＞ 胎児の様子、いろいろな人に支えられて生まれた命、赤ちゃん人形抱っこ体験・妊婦体験
- 3年生 「性感染症と男女交際～自分と相手を大切に～」
＜内容＞ 性感染症について・10代の交際、妊娠の問題・緊急避妊薬・性的同意・自分も相手も大切に生きる

◎生徒の感想◎

<1年生> ★体の変化、心の変化について

- 思春期に入っているため体と心は成長していくことが分かった。
- 体調の管理や準備をしておくことが大切ということが分かった。
- 体の変化やその心構えは恥ずかしことではないことがわかった。
- 性別の違いだけではなく、色々なことに対して個人差があることを認めることが大切ということ。
- 今日学んだことは自分だけではなく他人も大事にすることでもあるのでこれからも忘れないようにしたい。



<2年生> ★生命誕生、赤ちゃん人形抱っこ体験について

- 私が今ここにいるのは、色々な人達が助けてくれたからなんだと思いました。親とかにもちゃんと感謝しないといけないと思いました。
- 命が誕生するまでにはたくさんの時間がかかることが改めて分かりました。また、妊婦の方々はこんなにも重いのかと実感しました。
- 赤ちゃんが結構重くて妊婦さんは大変なんだと思いました。
- 改めてお母さんの大変さに気付かされました。
- 実際に妊娠中のお腹の重さや赤ちゃんを抱っこしてみて、妊婦さんは大変だと思ったし、産んでくれたお母さんに感謝しなければならないと思いました。



<3年生> ★性感染症と男女交際

- 今まで考えたことがなかったことをしれてよかった。他人事とは考えないようにしたい。
- 自分の行動に責任をきちんと持って行動したいと思った。
- 近年になって、相談できる場所や、そのための施設が多くできていることを学びました。
- その場あった男女関係を築いていきたい。
- 自分が知らなかったことや問題を知ることができたので、今後も気をつけて生活したい。
- 困ったことがあったら、すぐに周りの人家族や病院の先生に相談することが大切だと思った。



思春期保健事業の一部を御紹介！

LGBTQ+について(1年生)

・LGBTQ+とは「セクシャルマイノリティ」を表す言葉

L : Lesbian(女性同性愛者)

G : Gay(男性同性愛者)

B : Bisexual(両性愛者)

T : Transgender(性自認が、生まれた時の身体的性別と一致しない状態にある人々を広く指し示す言葉・性同一性障害を含む)

Q : Questioning(性自認が特定の枠に属さない、わからない人等を表すことば)

+ (プラス) : その他の多様性を表す



「男らしく」「女らしく」ではなく、「**自分らしく**」生きることの重要性を理解しましょう。
そして「自分らしく」は**自分で選べるもの**であることを忘れないで。

緊急避妊薬について(3年生)

・緊急避妊薬、アフターピル…聞いたことありますか？

▶性暴行などの望まぬ妊娠から自分自身を守る方法の一つです。

▶副作用があります。簡単に使ってよいものではありません。

▶使用には72時間以内というタイムリミットがあります。

一人で悩んでいても、救える手段が少なくなっていくばかり…。
相談や対応が、早ければ早いほどあなたを救う方法があります。
だから、まずは信頼できる大人に相談を。早期の受診を。

社会の変化と性に関する教育

那須塩原市では、性と生について考え、人格形成を目的として「思春期保健事業」を実施しています。授業の大きなテーマは表面の通り各学年で設定し、3年間で全校生が全ての内容を学べるようになっていきます。しかし、細かな内容については、「いつも通り」という訳にはいきません。それは、「性」と「生」に関して目まぐるしく変化していることが一つの要因としてあげられます。

令和元年には厚労省から「緊急避妊に係る診療の提供体制整備に関する取組について」都道府県知事に通知が出されました。現在は処方箋がなくても緊急避妊薬が購入できるようにすることについて、一定の要件を満たす薬局で医師の処方箋なしに試験的に販売をする調査が行われています。また、今年度6月23日には「LGBT理解増進法案」が国会で可決されました。性の多様性に関する「理解の増進」のための施策です。つまりは、理解するために「知る機会」をつくるのが重要となることも意味しています。これらはほんの一例です。

よって、思春期保健事業では社会の変化に合わせて、助産師と入念な打合せをして実施をしています。こういった情報は、専門家だから知っているということもありますが、毎日見ているテレビのニュースでも取り上げられていることです。目に入った時には、「こうなるんだ。」「どういうことだと思う?」といった、簡単な反応から知る姿勢や関心を示したり、家族で気軽に話をしたりしてみたいかと思いますが、きっと、そういった学校や家庭での積み重ねが、社会に出たときの自分の生き方や他者への尊重に繋がっていくのではないかと思います。